

心の中の 松阪

...50

大手前大学学長
柏木 隆雄

NHK主催の中学生合唱コンクールの県予選の結果が何位だったのか、今は覚えていない。優勝はしなかつたけれど、入賞したような気がする。

コンクールと言えば、合唱だけでなく、弁論大会もあった。あれは県大会というのではなく、松阪の中学校の対抗みたいなものだったのだろうか。

どういう経緯かは忘れたが、花岡中学で開催されるという弁論大会に、国語の先生であった飯田智英子先生から出場するよう勧められて、私が殿中代表みたいな形で教室で教わったことはなかったから、おそらく先生がそうした大会の世話をなさっていたのかも知れない。

例の卒業アルバムを繰ると、生徒会の写真に私が写っている。生徒会長だったのが弁論大会出場の白羽の矢を立てられた最大の理由だろうと思う。

さてその大会で何を話したかも忘れてしまった。優勝できなかつたことは確かで、2位か3位だったのではないかと思う。今もよく覚えているのはその大会で優勝した花岡中学の男子生徒。いかにも感じのいい秀才で、会場でもうづくら彼と話した。苗字は忘れただけ

ど、その名前が「葵」という漢字で、「あおい」とは変な名だなど思つて聞いてみたら、「外務大臣の重光葵」と同じ名前だよ、との返事。「まもる」と読むのを知つて聞いてみたが、私は全く知らない。

弁論大会出場のご褒美

くわいしかつた！

以来学生の間はお金もないのに店に行く機会は少なかつたが、大阪に出て、帰省の度に食べに行つた。時に家に帰る時間がなくとも

たのはその時が最初である。次姉が殿中に事務員補佐として勤務していた時、ジャリさん（松井勝太郎先生）に「山作」でぜんざいをご馳走（ちそう）になつた話を書いたが、私はその弁論大会の帰り道、飯田先生から「不二屋」の焼きそばをご馳走になつた。

町の飲食店で食べるのとは本当に初めての経験で、あの時焼きそばは確かに50円くらいではなかつた。おそらく大会出場のご褒美として連れていたのだろうが、その焼きそばの味がたまら



殿町中学の生徒会。前に中央で立つのが筆者。13号台風被害の救済が議題。1959(昭和34)年撮影

店にだけは寄つて、あの独特の味を楽しむ。

ブルーストの名作『失われた時を求めて』は、紅茶に浸したブレンドの出発点となる。私にとってのマドレーヌは、まさにその焼きそばだと、10年ほど前大阪の新聞にエッセーを連載した時、詳しくその焼きそばの味わい方まで伝授する文章を書いた。もちろん食べ方は人それぞれだけれど。

毎週土曜掲載

柏木 隆雄(68) 松阪市殿町出身。松阪工業高校卒業後、住友金属を経て大阪大学文学部卒、同大学院修了。阪大教授、文学部長など歴任。現在、大手前大学学長、日本仏文学会副会長。著書に『謎解き人間喜劇』(筑摩学芸文庫)、『交差するまなざし—日本近代文学とフランス』(朝日出版社)がある。兵庫県西宮市在住。

【大手前大学学長 柏木隆雄 プロフィール】

松阪市殿町出身。松阪工業高校卒業後、住友金属を経て大阪大学文学部卒、同大学院修了。

阪大教授、文学部長など歴任。現在、大手前大学学長、日本仏文学会副会長。

著書に『謎解き人間喜劇』(筑摩学芸文庫)、『交差するまなざし—日本近代文学とフランス』(朝日出版社)がある。兵庫県西宮市在住。